

## 『ロスト・タブレット』更新サイトへようこそ

## 『ロスト・タブレット』続編：その2『ウルトラ・バロックの聖堂を探せ』

## 1. 遅れを取り戻さなくては

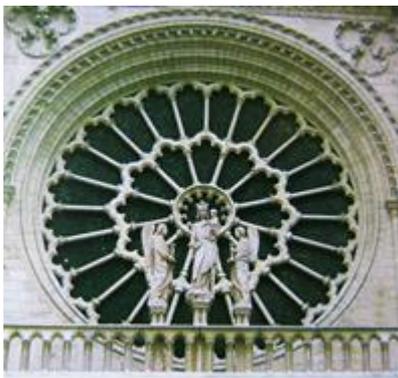
ふたたび

『大聖堂は世のすべて、時のすべてを包み隠してくれる』 -アロンソ・ピンソン (1955~)

イーグル・アラートに『ドレスデンの聖母教会』の画像が浮かびあがった2016年の3月16日、勝呂はそれまでずるずると先送りしてきた(先送りせざるを得なかった)お宝探しを再開することにした。フェリーペⅡ世のエメラルド・タブレットのことだ。まずはこれまでの探索を見直すことから始めた。

隠されている場所で最も可能性の高いところと言えば、やはりスペイン要塞とそれに守られた聖堂の中だろうか。いずれも一度は自分で踏破したところだ。勝呂は今一度カリブ海に点在するかつてのスペインの拠点を見直して一覧(下図表)にしてみた。本編の「第4章遙かなるカルタヘーナ・デ・インディアス(コロンビア)」では、カルタヘーナ大聖堂とサン・ペドロ・クラベル修道院、「第5章コロンの涙」ではドミニカ共和国のサント・ドミンゴ大聖堂とキューバのハバナ大聖堂、「第7章サン・ファン・デ・ウルア要塞の怨念」ではベラクルス大聖堂、さらに「10章ポルト・ベロ最後の攻防」ではパナマ・ビエホのサン・ホセ教会、そして「13章カリブの仕掛け」でプエルト・リコのサン・ファン大聖堂を探索したのだった。

厚い壁に囲まれていた城塞都市は、今では旧市街と呼ばれ世界遺産に登録されて観光の目玉になっている。目指す聖堂はそんな堅固な城塞の中でしっかりと守られている。つまりどの要塞都市も聖堂とセットになっていて、その様子が下表で窺うことができる。改めて分かったことは、要塞の中には全くと言っていいほどタブレットの隠し場所がないことだ。小さな祭壇があったと思われる礼拝堂や今では展示室になっている部屋などを調べても隠し場所は見当たらない。一方聖堂の方といえば、東奥の主祭壇をはじめ祭室チャペルや聖具室さらには側廊の礼拝堂や霊廟など視認できるところには隠されているはずもなく、探索は困難を極めたのだった。自分ならどこに隠すだろうか。勝呂は自答した。(だったら最後の手段、やはり今実証試験中の防犯監視システムの探索技術を使うしかないか……)



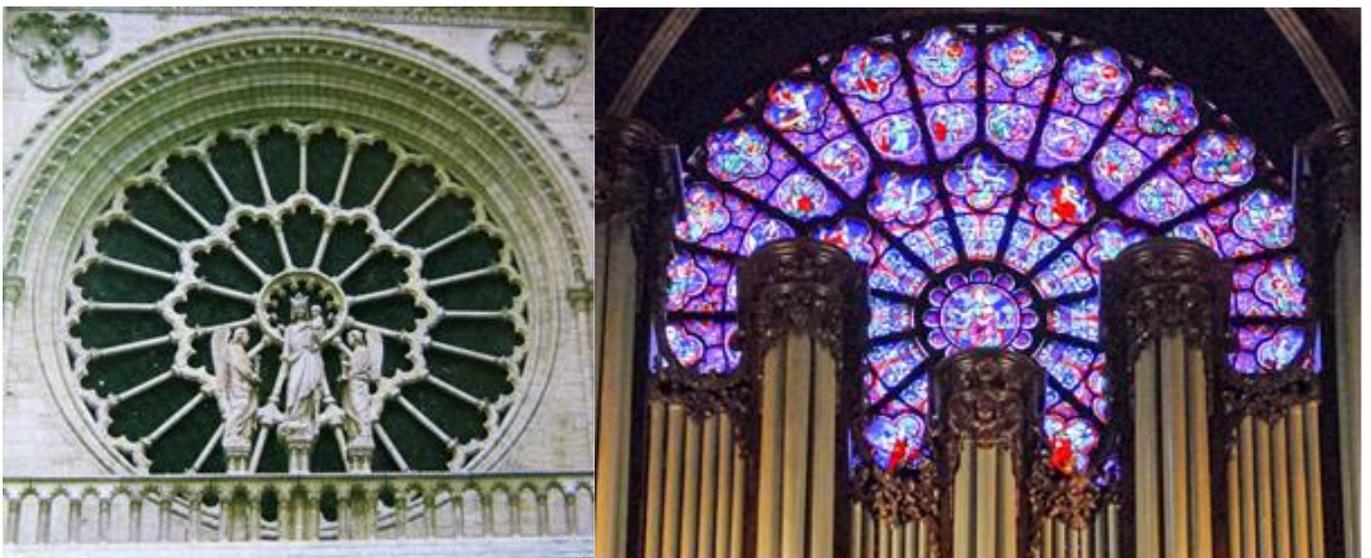
勝呂はメキシコのカンペチェだけは訪れていなかった。すでにアロンソが調査を済ましていたからだ。その時監視塔の写真も貰っている。「あっ、しまった!アロンソか、うっかりしてたぞ!」勝呂は地団太を踏む。すぐさまスカイプでマリアを呼び出した。そしてバラ窓のマリアに話しかけた。

「オラ、シオ。あなたから呼び出しなんて珍しいわね。ついにあなたをモデルにした本が出たのね?やったわね」「うん、やっとなんか日本語版がね。だけど主役は君の方だよ。今日はそのことではないんだ。実はね、ベラクルス大聖堂のことなんだが……」「あっあれね。修復工事のことでしょ。あれはね、確か2008年から2013年の工事を請負ったのはソンドオ・グループの関連会

社で ConstMex というメキシコの建設業者よ。教会の工事には弟のアロンソがいつも監督・監修するわね」  
「エッそうか、やっぱり。やられたな。じゃあ、エストラーダの息の掛かった業者か。だったらアロンソは修復工事中にじっくり時間をかけて徹底的にお宝探しをしたという訳か……」「そうだと思うわ」「それで成果はあったの?」「……………」マリアは無言のままだ。

(改修工事が唯一のチャンスだ!) 1994年あの聖堂で勝呂はこう呟いた。やはりあの時改修工事の計画が進められていたのだ。アリエル・ベルトレと名乗った飛び入りガイドもやはりソンドオ・グループの回し者だったのだ。(本文 239 ページ)

「ところでマリア、この間僕んここにイーグル・アラートの『Tableta Perdida』でドレスデンの聖母教会の写真が配信されて来たんだ。それで慌ててタブレット探しを再開したという訳なんだが、君も見たかい。いったい誰がアップしたんだろうか。だって『Tableta Perdida』とドレスデンの聖母教会を結び付けられるのはごく限られた人だけなんだよ。いまあの記事が出るということに何か意味があるのかなあ? いかにも解決を急げと言われているようだし……」と話しているときにスカイプの画面が突然切り替わった。「マリアなにこれ?」「パリ・ノートルダム大聖堂のバラ窓のステンドグラスよ。いつものマリア像のバラ窓を内側から見るとこうなっているのよ。あなたが撮った外側は西正面のファサードのバラ窓と聖母子像が上手に収まった正にベスト・アングルの写真(左)だわよね。でも内側では形が真円でなくて何か変でしょう! そうなのよ。手前の巨大パイプ・オルガンがこのステンド・グラスを遮っているからなの。これを見たとき私はすぐに死んだパパの造ったジグソー・パズルを連想したのよ。テ・アコルダス(覚えている)? ドレスデンの聖母教会のパネルを。そして『ステンド・グラス』って実は『ジグソー・パズル』だったのかってね。そうなのよ。この中にはどんなピースでも隠すことができるのよ……。このバラ窓の写真の送り主は弟のアロンソよ。2017年はピンソン家にとって特別な年なので、今年いっぱいはこのステンドグラスの映像を流すことにするわ」マリアはまたしても訳の分からないことを口走る。「う〜ん、ぼくとしては生マリアの映像の方がよっぽどいいのだがね……」結局この時はすっかり煙に巻かれてしまったのだった。



パリ・ノートルダム大聖堂のバラ窓とマリア像 西正面バラ窓のステンド・グラスとパイプ・オルガン Eric Chan CC-BY-2.0

次ページ図表「カリブ海のスペイン要塞」: 城塞都市の中の聖堂が堅固な要塞に守られている様子に着目。

コロンビア



Ryan CC-BY-SA-2.0

カルタヘーナ大聖堂



Joe Lopez CC-BY-SA-2.0

カルタヘーナ大聖堂身廊



Ealmagro GFDL

カルタヘーナ城塞都市 (旧市街)



Igvir Ramirez CC BY-SA 2.0

カルタヘーナ・デ・インディアス要塞

コロンビア



Baiji CC BY-SA 3.0

サン・ペドロ・クラベール修道院



David Shankbone CC-BY-SA-3.0

サン・ペドロ・クラベール修道院身廊



Cartagena, Colombia Old City Attractions Walking Tour

カルタヘーナ旧市街図



ho visto nina volare CC BY-SA 2.0

サン・フェリーベ砦

ドミニカ共和国



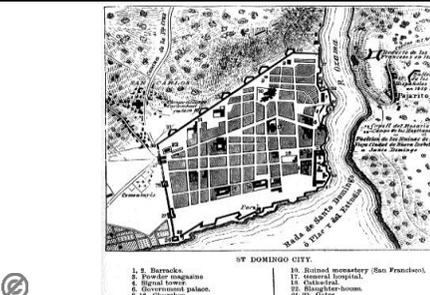
FS

サント・ドミンゴ大聖堂



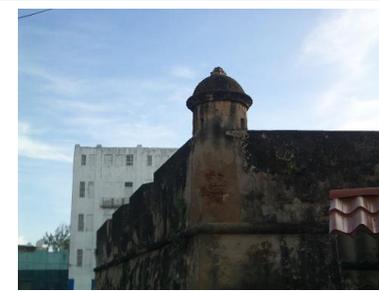
GFDL CC-BY-SA-3.0

サント・ドミンゴ大聖堂身廊



Ⓢ

サント・ドミンゴ旧市街図



FS

コンセプション砦

キューバ



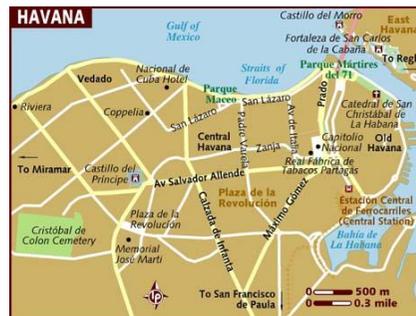
GFDL CC-BY-SA-3.0

ハバナ大聖堂



Velvet CC-BY-SA 4.0

ハバナ大聖堂身廊



ハバナ旧市街図



Michael Toft Schmidt CC BY-SA 3.0

モロ要塞

メキシコ



ベラクルス大聖堂



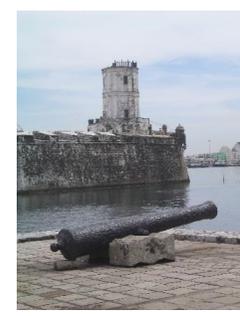
GFDL CC BY-SA 4.0

ベラクルス大聖堂身廊



FMG <http://www.military.org.ua>

ベラクルス旧市街図1854



FS

サン・ファン・デ・ウリア要塞

パナマ



Imontilla CC-BY-SA-3.0

サン・ホセ教会/カスコ・ビエホ



Editorpana CC-BY-SA-3.0

サン・ホセ教会主祭壇



⓪

パナマ・ビエホ市街図1789



Tedder CC BY 3.0

ポルト・ベロ要塞

プエルト・リコ



FS

サン・ファン大聖堂



FS

サン・ファン大聖堂身廊



サン・ファン旧市街図



FS

サン・クリストバル要塞

メキシコ



Macosh CC-BY-SA-3.0

カンペチェ大聖堂



Ricardo Roque CC-BY-SA-3.0

カンペチェ大聖堂身廊



カンペチェ要塞



PashiX CC-BY-SA-4.0

サン・ホセ要塞

## 2. 2017年 風雲急を告げる新旧両世界

ふたたび

『私の息子よ、お前は、叡智がいかに世界をほとんど支配していないことを知っているか』

-アクセル・オクセンシェルナ (スウェーデン宰相 1612~1654)

2017年になって世界はなお一段と物騒になってゆくばかりだ。宗教、民族、人種対立、経済格差、漂流する難民、自国Firstを掲げてまるで偏狭まっしぐらな米国の新大統領はどこに向かうのか。ヒト・モノ・カネの動き、これまでの仕組みが根底から覆されている。狂信一筋の北、自滅そのものの南、自己偏愛の隣の大国、壊滅シリア・イラク、成り行き離脱Brexitの英国、漂流EU、やはりしたたかなロシア、今時もお飢餓アフリカ、全世界気候大変動、理事長反政府テロ？に揺れる平和国日本。混迷深め、風雲急を告げる新旧両世界、まるで新たな大航海時代に突入したようだ。歴史は巡る。再びイベロ・アメリカ(スペイン・ポルトガル・中南米)の出番が巡って来るのか。ようやく内戦終結がかなったコロンビア、米国との関係回復に向かうキューバ、メキシコも米国新大統領と厳しく渡り合うことになる。そして拡張なった新運河が開通したばかりのパナマ、加えてあのパナマ文書もまた世界を揺るがしている。イスラム原理主義過激派組織からの国土回復もそう遠くはあるまい。スペインはレコンキスタ後の戦後処理の在り方をメスキータやアルハンブラなどにきちんと残している。異文化を排除していない。弱者に寄りそう現ローマ教皇はアルゼンチン出身。そしてまた、前国連難民高等弁務官にしてポルトガル元首相が国連事務総長に就任した。難民問題と自国第一主義に立ち向かう。16年のノーベル平和賞は現コロンビア大統領だ。内戦終結後の舵取りが問われる。原油安で危機的状況の隣国ベネズエラにも手を差し伸べるか。そして経済破綻のプエルトリコ(米国の自治領)を野放しにする米国。かくして世界が益々混迷を深める中この「ラテンの鼓動」が今度こそ新世界の構築を目指し、新たな大航海に漕ぎ出す新プルス・ウルトラの発動を世界は待っている。

フランシスコ教皇がツイッターで呼びかけている。

『愛情から憎しみへの道はたやすいもの。憎しみから愛への道はもっと険しいが、平和を導く』と。

## 3. 2017年3月18日 すわフェリーペⅡ世のエメラルド・タブレット出現か！

このCNNの記事を目にした勝呂が飛び上がったのは言うまでもない。「ついに出てきたぞ。ロスト・タブレットが！フェリーペのタブレットだ。アントネリのタブレットだ！」と喜んだのも束の間、よく見るとスペイン王室の刻印も見当たらない原石ばかりだった。失意の勝呂だったが、「どうだいこの分ならきつといつかは見つかるに違いない」という確信に変ったのだった。だがその一方で「ウルトラ・バロックの聖堂ばかりに絞っていてもだめかもしれない」と思うようになっていた。

## 400年前の沈没船のエメラルドが競売に

The CNN logo is displayed in white on a red square background. The letters 'CNN' are in a bold, sans-serif font, with a stylized 'C' and 'N'.

.co.jp

2017.03.18 Sat posted at 18:00 JST

<https://www.cnn.co.jp/showbiz/35098334.html>



ラ・グロリア。887カラットのエメラルド原石。現在のコロンビア・ムゾ産のエメラルドでは最大級

2017年3月18日 (CNN) クレオパトラやエリザベス・テイラーも愛したエメラルド。ジュエリーの世界でカラーストーンの人気が高まる中、400年前のスペイン船から引き揚げられた貴重なエメラルドが4月、ニューヨークでオークションにかけられることになった。売りに出されるのはエメラルドの専門家マニエル・マーシャル・ディゴマー氏のコレクションの一部で、原石やカット済みの石が20個以上に、美しいジュエリー13点だ。中でも注目されるのは、1622年にフロリダ沖で沈没したスペインのガレオン船「ヌエストラ・セニョーラ・デ・アトーチャ」号から引き揚げられたエメラルドだ。マーシャル氏は船内にあった宝石の鑑定を依頼され、その一部を報酬として受け取ったという。競売の説明書きによると、この船にはコロンビア・ムゾ産のエメラルドが多数あり、「史上最も価値のある難破船」と評されている。「アンデスの9本の柱」と呼ばれる9個のエメラルド原石(計91カラットあまり)の予想価格は250万~350万ドル(約2億8000万~3億9000万円)。4.39カラットの「海の女王」は25万~35万ドルの値が付くとみられている。

<http://www.cnn.co.jp/showbiz/35098334.html?tag=mcol;relStories>

希少なエメラルドがずらり マーシャル・ディゴマー氏のコレクション CNN

<https://www.cnn.co.jp/photo/35098335.html>

#### 4. 勝呂の追い上げ

『常なる監視、警戒が自由と平和を保つことができる』

The price of freedom is eternal vigilance.

—Thomas Jefferson (1743-1826) より

3月末勝呂はフィリピン・マニラで開催された Protect2017 セキュリティ・セフティ国際見本市で監視カメラと顔認証システム各社のブースを見て回った。監視カメラは日本勢が常にこの業界を牽引している。会場ではやはり時節柄、顔認証システムの精度に注目が集まった。顔認証ソフトの精度の性能比較については、勝呂はすでに米国の国立研究機関が行った世界十数社のテスト結果を得ていたのだが、やはり日本のメーカーが抜きん出ている。ただこの時「特定人物の探索・追跡技術」については未発表だった。これは目標人物の特徴を元にリアルタイムに判別・発見・追跡する映像解析技術なのだ。ここまでくるとこれはもうAI(人工知能)の活用領域で、攻撃目標を自ら見つけ出し、殺傷するキラー・ロボットに応用が可能になるのだ。そしてまた各地で頻発する自爆テロに対して強力な武器となる爆発物統合検知装置とも完全にリンクしている。



2017年3月27日

ニュースリリース AIを活用した映像解析による、リアルタイムな人物発見・追跡技術を開発  
100項目以上の特徴の組み合わせで人物を発見し、広範囲の映像から足取りを把握可能に

<http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2017/03/0327.html>

**①人物発見**  
人物の外見・動作の特徴をリアルタイムに判別し、検索

**②人物追跡**  
人物の全身画像を解析し、同一人物の映像を抽出

勝呂は目指すエメラルド・タブレットの探索にこの技術が強力な武器になると確信している。そして実現ももう間近かだ。もはや一刻も猶予も許されない。A toda máquina (全速力で)だ。マニラから横浜に戻った勝呂に、厄介な事件が持ち上がる。それは……。

続編その3『最終章』へ